【上級ビジネス実務士】教育課程　到達目標達成度評価表（提出用）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 資格到達目標 | 開発能力 | 具体的な学修目標 | 学生自己評価（項目別）レベル | 学生自己評価（領域別）総合評価 |
| 領域１　ビジネス（事業）に関する知識・スキルの基本を修得し、社会人基礎力と自己管理力を発揮して個人・協働業務においてビジネス実務を実践し、学びを継続することができる。 | 1-1ビジネス(事業)の理解 | ①ビジネス（事業）とは何かを理解し、ビジネス現場の様々な活動と連携させて捉えることができ、ビジネス実務実践に必要な専門的基本能力（業務マネジメント・デジタル情報活用・チームづくり）について理解している。 | 5・4・3・2・1 | 5・4・3・2・1 |
| ②ビジネス活動のプロセスの中で必要な倫理や法規に沿った基本活動を理解し、日常活動で実践できる。 | 5・4・3・2・1 |
| 1-2働く基本能力の活用 | ③ビジネス実務の学修に、すでに修得した働く基礎能力（読解力・対話力・考察力・デジタル基本スキル・言語表現力など）を活かして活動し、それを指導する基本を身につけている。 | 5・4・3・2・1 |
| ④情報倫理、知的所有権、情報活用マナーにしたがって、情報通信スキルを活用してデータを収集・加工し、説得力のあるレポート・文書・資料を作成できる。 | 5・4・3・2・1 |
| 1-3実践学修に取り組む力 | ⑤大学等で学んでいる学修成果（知識・スキル）を意欲的に実践し、実践から学ぶ方法や他者に教える素養を身につけている。 | 5・4・3・2・1 |
| ⑥大学等で学んだ学修成果を協働する実践学修の場で活用し、その結果を振り返って、学びを継続できる。 | 5・4・3・2・1 |
| 領域２　専門知識・スキル（ビジネス実務力、国際ビジネス実務力、サービス実務力）を修得し、専門的実務実践力を活用して変化するビジネス環境に柔軟に対応して成果を出すことができる。 | 2A-1上級ビジネス実務知識 | ⑦ビジネス実務学修に必要な専門的基本能力（業務マネジメント（PDCA）・デジタル情報活用・チームづくり）を活用する方法を理解し、ビジネス環境変化に対応して実務力を高めることができる。 | 5・4・3・2・1 | 5・4・3・2・1 |
| ⑧ビジネス実務の専門的基本能力（業務マネジメント等）を実践するための知識を説明することができる。 | 5・4・3・2・1 |
| 2A-2上級ビジネス実務スキル | ⑨チーム活動に必要な対人コミュニケーションの留意点を説明でき、自らもその能力を向上させることができる。 | 5・4・3・2・1 |
| ⑩ビジネス実務の日程計画作成・会議準備・企画提案・発表を、議論しながら創意工夫して実践し、成果を報告書にまとめ、指導する素養を備えている。 | 5・4・3・2・1 |
| 2A-3ビジネス実務実践力 | ⑪メンバーと共に、ビジネス実務の工夫・改善を組織的に実践できる能力を修得するとともに、ビジネス実務を他者に指導する素養を備えている。 | 5・4・3・2・1 |
| ⑫ビジネス実務の専門的基本能力をもって、実務知識・スキルを活用する総合的演習を通して、メンバーと共に課題を明確にし、成果を出すことができる。 | 5・4・3・2・1 |
| 領域３　ビジネス実務知識・スキルを活用しての総合的学修活動を通して、多様な職業能力の基盤となる課題発見・解決力と学びの継続力の重要性を理解している。 | 3-1総合的課題発見・解決力 | ⑬課題実践学修における失敗・活動低下・崩壊のきざしなどにあきらめないで対応し、多様な人と関わりをもてる柔軟かつ積極的活動ができる。 | 5・4・3・2・1 | 5・4・3・2・1 |
| ⑭ゼミ活動やビジネス実践事例研究を通してメンバーと共に課題を明確にし、創意工夫して結果を出す総合的実践力の理解を深め、共に教え学び合うことの価値を見出すことができる。 | 5・4・3・2・1 |
| 3-2実践活動の学びの継続力 | ⑮協働で課題解決する活動を通じて、自分の能力の課題に気づき、能力を高める行動をとることができる。 | 5・4・3・2・1 |
| ⑯社会の変化を感知して、学びを継続する方向性を考えることができる。 | 5・4・3・2・1 |

〇評価結果の全体振り返りと今後の自分の開発能力と学修課題について（300字程度 学生記入）

|  |
| --- |
|  |

教職員提出確認

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 大学ｺｰﾄﾞ |  | 大学名 |  | 学部・学科 |  |
| 学籍番号 |  | 氏名 |  |

【上級ビジネス実務士(国際ビジネス)】教育課程　到達目標達成度評価表（提出用）

**添付資料Ｂ**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 資格到達目標 | 開発能力 | 具体的な学修目標 | 学生自己評価（項目別）レベル | 学生自己評価（領域別）総合評価 |
| 領域１　ビジネス（事業）に関する知識・スキルの基本を修得し、社会人基礎力と自己管理力を発揮して個人・協働業務においてビジネス実務を実践し、学びを継続することができる。 | 1-1ビジネス(事業)の理解 | ①ビジネス（事業）とは何かを理解し、ビジネス現場の様々な活動と連携させて捉えることができ、ビジネス実務実践に必要な専門的基本能力（業務マネジメント・デジタル情報活用・チームづくり）について理解している。 | 5・4・3・2・1 | 5・4・3・2・1 |
| ②ビジネス活動のプロセスの中で必要な倫理や法規に沿った基本活動を理解し、日常活動で実践できる。 | 5・4・3・2・1 |
| 1-2働く基本能力の活用 | ③ビジネス実務の学修に、すでに修得した働く基礎能力（読解力・対話力・考察力・デジタル基本スキル・言語表現力など）を活かして活動し、それを指導する基本を身につけている。 | 5・4・3・2・1 |
| ④情報倫理、知的所有権、情報活用マナーにしたがって、情報通信スキルを活用してデータを収集・加工し、説得力のあるレポート・文書・資料を作成できる。 | 5・4・3・2・1 |
| 1-3実践学修に取り組む力 | ⑤大学等で学んでいる学修成果（知識・スキル）を意欲的に実践し、実践から学ぶ方法や他者に教える素養を身につけている。 | 5・4・3・2・1 |
| ⑥大学等で学んだ学修成果を協働する実践学修の場で活用し、その結果を振り返って、学びを継続できる。 | 5・4・3・2・1 |
| 領域２　専門知識・スキル（ビジネス実務力、国際ビジネス実務力、サービス実務力）を修得し、専門的実務実践力を活用して変化するビジネス環境に対応して成果を出すことができる。 | 2B-1国際ビジネス実務知識 | ⑦国際的なビジネス環境の現状と課題に関する知識を説明できる。 | 5・4・3・2・1 | 5・4・3・2・1 |
| ⑧海外における日本企業のビジネス活動に関する知識や、活動に必要なスキルを説明できる。 | 5・4・3・2・1 |
| 2B-2国際ビジネス実務スキル | ⑨ビジネス実務に必要な基本的な英語会話を実践できる。 (TOEIC:400 点以上） | 5・4・3・2・1 |
| ⑩異文化を理解し、ビジネス現場で必要な最低限のビジネス対話力・英文の読解力、英文メールの作成力を修得している。 | 5・4・3・2・1 |
| 2B-3国際ビジネス実務実践力 | ⑪国際ビジネス実務の工夫・改善を組織的に実践できる能力を修得している。 | 5・4・3・2・1 |
| ⑫国際ビジネス実務の基本知識・スキルを活用する総合的演習を通して、課題を明確にし、成果を出すことができる。 | 5・4・3・2・1 |
| 領域３　ビジネス実務知識・スキルを活用しての総合的学修活動を通して、多様な職業能力の基盤となる課題発見・解決力と学びの継続力の重要性を理解している。 | 3-1総合的課題発見・解決力 | ⑬課題実践学修における失敗・活動低下・崩壊のきざしなどにあきらめないで対応し、多様な人と関わりをもてる柔軟かつ積極的活動ができる。 | 5・4・3・2・1 | 5・4・3・2・1 |
| ⑭ゼミ活動やビジネス実践事例研究を通してメンバーと共に課題を明確にし、創意工夫して結果を出す総合的実践力の理解を深め、共に教え学び合うことの価値を見出すことができる。 | 5・4・3・2・1 |
| 3-2実践活動の学びの継続力 | ⑮協働で課題解決する活動を通じて、自分の能力の課題に気づき、能力を高める行動をとることができる。 | 5・4・3・2・1 |
| ⑯社会の変化を感知して、学びを継続する方向性を考えることができる。 | 5・4・3・2・1 |

〇評価結果の全体振り返りと今後の自分の開発能力と学修課題について（300字程度 学生記入）

|  |
| --- |
|  |

教職員提出確認

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 大学ｺｰﾄﾞ |  | 大学名 |  | 学部・学科 |  |
| 学籍番号 |  | 氏名 |  |

【上級ビジネス実務士(サービス実務)】教育課程　到達目標達成度評価表（提出用）

**添付資料Ｂ**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 資格到達目標 | 開発能力 | 具体的な学修目標 | 学生自己評価（項目別）レベル | 学生自己評価（領域別）総合評価 |
| 領域１　ビジネス（事業）に関する知識・スキルの基本を修得し、社会人基礎力と自己管理力を発揮して個人・協働業務においてビジネス実務を実践し、学びを継続することができる。 | 1-1ビジネス(事業)の理解 | ①ビジネス（事業）とは何かを理解し、ビジネス現場の様々な活動と連携させて捉えることができ、ビジネス実務実践に必要な専門的基本能力（業務マネジメント・デジタル情報活用・チームづくり）について理解している。 | 5・4・3・2・1 | 5・4・3・2・1 |
| ②ビジネス活動のプロセスの中で必要な倫理や法規に沿った基本活動を理解し、日常活動で実践できる。 | 5・4・3・2・1 |
| 1-2働く基本能力の活用 | ③ビジネス実務の学修に、すでに修得した働く基礎能力（読解力・対話力・考察力・デジタル基本スキル・言語表現力など）を活かして活動し、それを指導する基本を身につけている。 | 5・4・3・2・1 |
| ④情報倫理、知的所有権、情報活用マナーにしたがって、情報通信スキルを活用してデータを収集・加工し、説得力のあるレポート・文書・資料を作成できる。 | 5・4・3・2・1 |
| 1-3実践学修に取り組む力 | ⑤大学等で学んでいる学修成果（知識・スキル）を意欲的に実践し、実践から学ぶ方法や他者に教える素養を身につけている。 | 5・4・3・2・1 |
| ⑥大学等で学んだ学修成果を協働する実践学修の場で活用し、その結果を振り返って、学びを継続できる。 | 5・4・3・2・1 |
| 領域２　専門知識・スキル（ビジネス実務力、国際ビジネス実務力、サービス実務力）を修得し、専門的実務実践力を活用して変化するビジネス環境に対応して成果を出すことができる。 | 2C-1サービス実務知識 | ⑦企業活動におけるサービス実務の意義と内容、現状と課題を説明できる。 | 5・4・3・2・1 | 5・4・3・2・1 |
| ⑧サービスビジネスにおけるマネジメントの基本知識やサービス実務に必要なスキルを説明できる。 | 5・4・3・2・1 |
| 2C-2サービス実務スキル | ⑨顧客とのやりとりを通じてサービス実務における付加価値を創造できる実践力を修得している。 | 5・4・3・2・1 |
| ⑩専門的なサービス実務の技能と、組織的にサービス実務の工夫・改善を実践できる能力を修得している。 | 5・4・3・2・1 |
| 2C-3サービス実務実践力 | ⑪メンバーと共に、サービス実務の工夫・改善を組織的に実践できる能力を修得している。 | 5・4・3・2・1 |
| ⑫サービス実務の基本知識・スキルを活用する総合的演習を通して、メンバーと共に課題を明確にし、成果を出すことができる。 | 5・4・3・2・1 |
| 領域３　ビジネス実務知識・スキルを活用しての総合的学修活動を通して、多様な職業能力の基盤となる課題発見・解決力と学びの継続力の重要性を理解している。 | 3-1総合的課題発見・解決力 | ⑬課題実践学修における失敗・活動低下・崩壊のきざしなどにあきらめないで対応し、多様な人と関わりをもてる柔軟かつ積極的活動ができる。 | 5・4・3・2・1 | 5・4・3・2・1 |
| ⑭ゼミ活動やビジネス実践事例研究を通してメンバーと共に課題を明確にし、創意工夫して結果を出す総合的実践力の理解を深め、共に教え学び合うことの価値を見出すことができる。 | 5・4・3・2・1 |
| 3-2実践活動の学びの継続力 | ⑮協働で課題解決する活動を通じて、自分の能力の課題に気づき、能力を高める行動をとることができる。 | 5・4・3・2・1 |
| ⑯社会の変化を感知して、学びを継続する方向性を考えることができる。 | 5・4・3・2・1 |

〇評価結果の全体振り返りと今後の自分の開発能力と学修課題について（300字程度 学生記入）

|  |
| --- |
|  |

教職員提出確認

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 大学ｺｰﾄﾞ |  | 大学名 |  | 学部・学科 |  |
| 学籍番号 |  | 氏名 |  |